

一般質問通告書

受領日時 令和 8年 2月 17日 午前11時35分 10 番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1.公共施設に今後の活用計画を	<p>(1)五城目小学校、五城目第一中学校は、児童生徒の減少により空き教室は増える一方で、近い将来、全学年1クラスという状況を招く。これまで2度にわたり、空き教室活用の考えを問い、また、こども園の3, 4, 5歳児をプレスクール(保育学校)として小学校1階に入学させ、幼小連携を図ることなども提案してきた。前教育長からは「新たな園庭や遊具の整備が必要となること。目的外使用で繰り上げ償還が必要となり、財政負担が大きくなる」といった答弁があった。また、今後の教育施設や学習環境のあり方については、「教育委員会定例会、総合教育会議、学校運営協議会などで協議を進め、ワークショップの開催や子どもの意見も聴取していきたい」というものであった。その後、各協議体において話し合われたことはあったか。そろそろこういったことに考えを巡らす時期に来ているのではないか。</p> <p>教育施設の今後の活用について、また、給食の提供について教育長の考えは。</p> <p>(2)町長は45の施策の中で子育てに関し、「子育て総合支援施設の設置」、「雀館公園一帯を子どものびのびゾーンとして整備」、「安定したこども園の経営を図る」としている。</p> <p>この冬、もりやまこども園大川分園では雨漏りがひどく、応急的な修繕を行った。本園での園児数の著しい減少、分園園舎の老朽化等もあり、数年先の統合を見据えた協議を行う時期に来ているとのことであった。本園は3年前に園舎の大規模改修を終えているが、床暖房などの空調設備や水回りは耐用年数を過ぎており、今後施設設備の更新には大きな予算が必要だ。</p> <p>また、来年度から「こども誰でも通園制度」が始まり、町のほとんどの子どもがもりやまこども園に通園することになる。町長の思い描く子育て総合支援施設に、いずれこども園も併設するなど、保育・教育の場を集約し、財政的にも効率的な運営を図っていくことが必要ではないか。</p> <p>(3)今後のまちづくりは立地適正化計画も重要な役割を果たすととらえる。「上小阿仁村集住型宿泊拠点施設コアニティー」は、除雪など冬場の生活に不安のある高齢者が冬期間入居したり、そのまま入居しているケースもあるなど、村営のアパ</p>

	<p>ートで、高齢者の居住誘導でもある。また、使用頻度の少ない道路を冬期間通行止めにし、除雪費の削減に努める自治体も出て来た。昨年は国勢調査が行われ、今後の交付税額に不安を抱く。</p> <p>人口減少を踏まえたこれから必要なまちづくりの手法に「賢く縮む」という考え方がある。地域の構造や公共サービスのあり方を改善し、生活の質を維持・向上させつつ公共サービスを集約化・効率化するという考え方である。持続可能な町であるための「賢く縮む」まちづくりに、町長の見解はどういったものか。</p>
<p>2. 農業者との意見交換会から必要な施策をどう考える</p>	<p>(1) 昨年 12 月に町内 6 ヲ所で行われた農業者との意見交換会では、機械購入補助事業に対し、「法人だけでなく、町内会や多面的機能支払い交付金受託グループなどにも行ってほしい」「兼業農家も対象に」といった意見や、「中古機械購入や、修理費用も補助対象にならないか」といった声が聞かれた。クマ対策誘因樹木伐採補助に対しては、「木の太さで単価を設定すべき」「処分費用への補助も必要」といった具体的な意見も出され、施策に反映できる有意義な意見交換会であった。</p> <p>これらのことから実際にどういう施策を講じ、農家の耕作意欲向上、クマ対策へ繋げていく考えか。</p> <p>(2) イノシシ被害への切実な意見も聞かれた。電気柵購入費助成は十分か。囲い罫は功を奏しているか。より有効な対策はないか。イノシシによる農地被害復旧にも、災害同様の支援を望む声も聞かれた。どう考えるか。</p>
<p>3. 町の歴史、文化の継承をどう進めていくか</p>	<p>(1) 第 36 回 秋田追分全国大会が 10 月 5 日、48 名の出場者により開催された。その振り返りの実行委員会で、事務局を務める町側から、「年々出場者が減少している傾向にあり、秋田追分を聞きに来ている方より、出場者の関係者のほうが多い印象である。開催要項にある秋田追分の正しい伝承と保存及び普及を図るためとの達成度は低くなっている。改善策等を見出す必要と大会の存廃も検討しなければならないと考える」といった見解が示された。確かに継続には課題があるが、大会の存廃の検討とは唐突で乱暴ではないか。町も大会の存続に方策を考えるなど、実行委員会と共に尽力する必要があるのではないか。後世に語り継ぐべき町の歴史や文化をどう守り、継承していく考えかを問う。</p> <p>(2) 五城館にある矢田津世子文学記念室、舘岡栗山の大作や遺跡から発掘された出土品を所蔵する友愛館のあり様など、</p>

	<p>町の宝とも言えるものの展示の工夫を図ってはどうか。町民や訪れる方々に、もっと鑑賞していただく工夫や発信をどう考えるか。</p>
<p>4.選挙における投票率向上の方策を</p>	<p>(1)2月に行われた衆議院選挙は雪の多い真冬の選挙であったことも起因してか、秋田県において戦後2番目に低い投票率であったと公表された。当町での投票率は57.78%であった。昨年7月の参議院選から、それまで14カ所あった投票所が7カ所に削減された。知事選の期日前投票が、投票者数の半数以上を占めるようになったことを考えると賢明な判断だとも思える。投票所削減に伴い、投票所への移動が困難な方に対し、タクシーでの無料送迎の利用を呼び掛けているようだが、利用率はどうか。投票率をどう分析しているか。</p> <p>(2)高齢の有権者から、「買い物に併せてイオンでの期日前投票をできるようにしてほしい」といった声や、「期日前に日時を設定し、各地区を移動投票所で回ってほしい」といった声が多く届いている。検討してはどうか。</p>